

第277回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成23年4月25日（月）午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員7人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
笠井 明	委員	吉原 浩	委員
大久保 千春	委員	田村 明子	委員
尾畑 留美子	委員		

会社側出席者

専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
常務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長 兼 報道部長	稲田 裕之
編成部長	中川 保彦
制作部長	小木 裕介
合評番組プロデューサー	大橋 義宏

事務局	海津 智洋	紫竹 聡子
-----	-------	-------

4 議 題

1) 番組合評

**「テレビ新潟開局 30 周年記念番組
コメリヒューマンズスペシャル
命のかぎりムスタンに生きる～第五章～」**

〔放送 : 2011 年 4 月 2 日(土) 10:30～11:25〕

(説明 : 番組プロデューサー 大橋 義宏)

2) 会社報告

- ①平成 22 年度視聴率について (報告 : 編成部長 中川 保彦)
- ②4 月期の番組編成について (報告 : 編成部長 中川 保彦)
- ③3 月の視聴者の意見。 (報告 : 視聴者相談室長 海津 智洋)
- ④講じた措置、公表など定例の報告等。(報告 : 番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要 (委員の意見)

会社側から、この番組は 1996 年に「でっかいぞ新潟」という番組企画で出会った「世界で活躍する新潟の人たち」の中で、70 歳で標高 2000m を超える高地であるネパールのムスタンに入り稲作に挑戦を始めた近藤さんについて、取材を始めた 75 歳当時から 15 年間ずっと追いかけて現地での氏の活動を取材してきたもので今回で第 5 作目の番組であること。今年 90 歳になる近藤さんのありのままの「今」の姿を現地での映像と音声で視聴者にお伝えしたいと考えて制作された番組であることなどを

報告した。

●取材地の山岳高地があまりにも厳しい環境であるため今回の大震災被災地と重ねて見てしまった。近藤さんが取り組んできた米、教育、病院の3つは人が生きていくためには欠かせないので改めて思った。

●食べて生きていくための農業から農作物を出荷する商業ベースに乗る農業にまで発展し変化していく中で、地域が自立するためには何が必要なのか考えさせられた。

●ボランティア団体が解散したという状況を知り、普段あまり触れることの少ないボランティアというものの自体やその組織について興味を持った。

●近藤さんの生き様は日本人にとってとても勇気を与えてくれるものだが、日本の病院や老人施設ではなぜこんなに老人が淋しく見えるのだろうと思った。施設に居るときの近藤さんが小さく見えた。厳しい環境であるムスタンに居る近藤さんは大きく生き生きとして見えた。高齢化社会にあって高齢者たちが生き生きと積極的に人生を過ごせるような環境や場所はないものか…その問いが最後まで頭から離れなかった。

●番組シリーズの第4作目を見て素晴らしい高地の映像や風の音などに感動したこと思い出し、今回はその後の「変化」に期待と興味を持って見た。ボランティア団体が解散と聞いて、その後の展開に興味が行ったが番組では淡々と近藤さんの日常を追いかけており、詳細は分からなかった。

●素晴らしい映像だがシリーズ第5作目ということもあって、近藤さんの活動は彼の地に根付いているのか心配であり確認し

たいと思った。ネパール政府はどう考えているのか。地元の人たちはどう思っていて、どう根付いているのか。近藤さんたちではなく、第三者的な農業の公的な専門家などからの周辺の声を拾って行って欲しかった。近藤さん個人に密着した視点ではなく、近藤さんの後にどう展開していくのかという視点もあっても良かったと思った。

●近藤さんが日本の老人施設に居る時のシーンが印象的。日本の老人施設ではすべての老人が「老人」として一括りで見えてしまう。ムスタンの青空の下ではじめて近藤さんが近藤さんに見えると感じた。

●近藤さんがどれくらいムスタンに居て、日本にはどれくらい居るのかわからなかった。

●志の強いお年寄りや頑張っている人がいるというのは見ている人に元気を与えるので今後も頑張っている新潟の人を紹介する番組を制作して行って欲しいと思った。

●近藤さんの近況を物語るに、吊り橋を両脇を支えられて渡る姿や、手伝ってもらいやっと跨る愛馬に乗って行き来する姿に映像の力を感じた。

●第1章から第4章までの内容をダイジェストで紹介してくれて、今回第5章はここが新しいポイントだと説明してくれるとわかりやすかったと思った。

●折角開いた学校が廃校になっていたり病院も存続が難しくなっていると聞くと、地元の人たちが近藤さんたちをどう見ているのか知りたくなった。

●困難に直面しても諦めないで希望をもって様々なことに取り組むという近藤さんの姿勢は、東日本大震災の復旧復興に立ち

向かう我々としてはとても良いお手本になると思った。

●近藤さんについて、なぜムスタンなのか。なぜ70歳から始めたのか。素朴な疑問が残った。

●近藤さんの心に残る素晴らしいことばが幾つか印象に残った。

「一番弱虫の自分が長生きできたのは農業のお蔭だと思う。」

「一年や二年は失敗の内に入らない。農業とはそんなものだ。」

●近藤さんがスタッフを怒って叱りつけているシーンがある。現在はあまりないシーンで、やはり人を育てるといふのはこうなんだと思った。

●ボランティア団体が行ってきたムスタンの地域開発についてネパール政府はどう考えているのか全くわからない。第3章や第4章を見ても後継者は増えていないように感じた。彼の地であれだけ貢献しているのに地元的、国際的には本当に評価されているのか疑問にも思った。

●国際的なボランティア活動では、当地から内政干渉だとされてトラブルになるケースも多く、現地での技術伝達だけでなく成功の鍵はやはり現地での人材育成・後継者育成であると思った。その国の人たち自身に新しい国造りの思いを実らせるような人材育成だと思った。

●世界の高地には米より育てやすい作物もあるが、なぜ稲作に拘ったのか。その理由を近藤さんに聞いてみたい気がした。

●近藤さんが一人佇む番組最後のシーンが孤独な氏の現状を物語っているようでとても印象的だった。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

3月……366件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成23年3月28日)から昨日(平成23年4月24日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見（前回審議会）に対してとった措置

- 1) 前回、第276回審議会では「近未来研究所～科学技術の未来をリサーチ!～」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。
- 2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第277回放送番組審議会の公表

- 1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。
- 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。
- 3) インターネットのTeNYホームページに議事概要を掲載しました。

9 参考事項（委員への配布資料）

- ・平成22年度視聴率資料
- ・4月期の番組編成資料
- ・3月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・3月の単発番組制作一覧
- ・民間放送新聞（4/3, 4/13号）
- ・BPO報告（No.95号）

以上